

(2018年12月号掲載)

群馬県内企業の海外需要への対応の現状と動向

付帯調査：外国人の雇用に関する調査

一般財団法人群馬経済研究所
主任研究員 丸岡 美智世

～要 約～

1. 群馬経済研究所が海外需要への対応や海外進出を考えている企業についてアンケート調査を実施したところ、回答企業のうち、「海外進出している」は25社（約6%）にとどまり、「現在、海外進出していない」が大多数であった。
2. 海外進出企業の進出形態では「生産拠点」が多く、進出先では「中国」などアジアが多い。海外進出の現在の目的には、「新規の取引先・市場の開拓」、「原材料等の仕入・調達コストの削減」や「人件費の削減」が、現在の課題には、「進出先で必要な人材の確保と対応」をはじめ、「販売先の確保・販路開拓」、「品質管理・納期管理」が挙げられた。
3. 海外拠点の人材の状況をみると、マネジメント層では、「社内・関連会社」から日本人を登用することが多かった。技術者・エンジニア層では、「自社の従業員・役員（日本人）」のほか、「求人誌・求人広告」を利用した、外国人技能実習生（修了者）等を除く「その他の外国籍の人材」からの採用が多い。海外拠点の人材に関する課題では、「現地従業員の確保」をはじめ、「現地従業員の育成・定着」、「現地従業員の賃金上昇によるコストアップ」、「マネジメント層の確保」が上位となっている。
4. 現在、海外進出していない企業では、その理由として「国内需要で十分なので」が半数近くを占めた。「条件が整えば海外進出したい」または「将来、海外進出したい気持ちはある」とした企業は18%弱にとどまり、海外進出決定に必要な条件には、「海外取引を主導できる人材の確保」、「信頼できる提携先の確保」等が挙げられた。海外進出または海外取引の実施を想定した場合の相談先では、30%以上の企業が「取引金融機関」を挙げている。
5. 群馬県では、企業の海外進出支援や外国人観光客の受け入れに関して情報提供および相談窓口体制の拡充等、多面的な施策を展開している。地域の金融機関や群馬県等の活用による海外需要の更なる取り込みが期待される。

キーワード：海外拠点人材の採用・課題 海外需要の取り込み 今後の外国人の雇用意向